（別紙4）　　平成　21　年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1296700014		
法人名	有限会社　かづみ		
事業所名	グループホーム　あんしん睦沢		
所在地	千葉県長生郡睦沢町川島757-1		
自己評価作成日	平成22年5月17日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://kaigo.chibakenshakyo.com/kaigosip/Top.do

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	株式会社　日本ビジネスシステム
所在地	千葉県市川市富浜3-8-8
訪問調査日	平成22年5月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

利用者が生き生きとして暮らせるような環境を考えながら、料理や散歩や庭仕事などを一緒に行いながらそれぞれの生活観にあった援助をしている。家庭的な環境の中で、ご利用者の意思や得意な事（料理・園芸・手芸）などを介護スタッフと協力しながら、共同作業する事で能力を最大限引き出し、「自立した日常生活にぬくもりのある暮らし」を提供している。
このことにより毎日楽しく穏やかに生活できる様努力している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

「グループホームあんしん睦沢」は農村地帯にある旧地主の所有していた古民家を利用した、民家特有の温かな趣のあるどこか懐かしい施設である。広い庭と、陽のさんさんとあたる広縁があり落ち着いた雰囲気を醸し出している。安全と快適性に配慮しながら一部改修を行い、「昔の生活」が思い出させるよう随所に工夫がなされている。地域住民である入居者が、田んぼや畑が広がる馴染みの場所での生活継続が可能となっており、地域の中で安心して暮らせる環境となっている。職員は理念に基づき、入居者の尊厳を守り、本人本位の自由な生活支援に努めていると共に、入居者と共存し合いながら家庭的で穏やかな雰囲気を感じさせる施設運営に取り組んでいる。

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）		1. ほぼ全ての利用者の
		○	2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）		1. 毎日ある
		○	2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
		○	4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）		1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
		○	3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
			3. たまに
		○	4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
		○	3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）		1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
		○	3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
		○	3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、〔Altキー〕＋〔Enterキー〕です。〕

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域の商店街などに買い物に行った際に地域の方とのコミュニケーションを大切にしている。散歩の際にあいさつをしてコミュニケーションをとるよう心がけている。	「個人を尊重し安全で安心して楽しく、美しい共同体を地域を含めて、和をもって確立する」という法人理念を掲げている。また、「基本的人権の尊重」「自立支援」「老いの心を癒す」を主眼とした施設方針を掲げ、その人らしい生活の支援に努めていると共に、事業所に掲示しており、職員・来訪者への周知を行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域密着の重要性を理解してもらい地域行事等に積極的に参加して理解を深めてもらうよう検討中。	入居者の大半が地域の住民であり、散歩や外出時には、挨拶や会話を交わす等、地域との交流が日常的に行われている。また、今後は、地元のお祭り等の地域行事に参加し、地域との交流促進を目指している。	現在は施設の表札等がない状態となっている。来訪者や地域住民に向けて、グループホームの理解促進に繋げる工夫を期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現在まだ動いておりません。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の意見交換会を検討中のためまだ行っていません。	市役所職員・民生員・施設職員等を構成員として、運営推進会議を開設以来一回開催した。会議では入居者の近況報告・施設の活動報告・防災等を議題としており、意見交換を行い、サービスの質の向上にいかしている。	施設理解の促進と地域との関係強化を図る為にも、運営推進会議を定期的に開催し、運営推進会議の充実化に向けた取り組みを期待します。また、運営推進会議を、入居者・家族の意向・要望等を確認する場にしていただき、挙がった意見等をサービスの質の向上に繋げていただく事を望みます。

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村担当者や地域包括の担当者とコミュニケーションを取り苦情等の相談、行政からの連絡をとりながら業務に取り組んでいる。	定期的に市に対して、相談や報告等を行っていると共に、行政機関経験のある職員による助言等もあり、密に連携が取られている。また、地域のグループホーム連絡会を通じて、意見･情報交換を行い市と連携を図る体制が構築されている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	現在、徘徊者の対応について検討中のため一時的に施錠しているのが現状。	身体拘束排除における理念及び施設方針を明文化すると共に玄関に掲示しており、身体拘束の排除に向けて取り組んでいる。玄関においては、日中は施錠していないが、やむを得ない場合は安全確保のために施錠している。施錠について家族に説明をし、同意を得ている。傾聴や声掛けの対応方法等に工夫しを凝らし、入居者の自由な生活を支援している。	身体拘束排除のマニュアル等を整備すると共に、定期的に研修や検討会議の実施し、記録することにより、全職員の共有認識が図られ、入居者一人ひとりに即したケアの実践に繋げていくことを期待します。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	虐待防止について職員に教育すると共に、資料等を活用し虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	資料ができ次第実施予定。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解･納得を図っている	変更、改定の際ははがき等にて連絡し理解を図るよう努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	投書箱やコミュニケーションにより改善できることは改善できるよう努めている。	家族の面会時や電話連絡時に意見･要望等を確認している。挙がった意見･要望等においては、適切な対応に努めている。全職員が入居者･家族と日々のケアの中でコミュニケーションを取り、意向･要望の把握に取り組んでいる。	入居者･家族から挙がった意見･要望等の内容や経過等を記録する事により、全職員が情報･対応を共有できるよう体制の見直しを期待します。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の声は聞いて反映させているが、機会をもうけていない。	管理者は日頃の業務において職員の話を聞く機会を設けており、職員の意見･要望の把握に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境･条件の整備に努めている	職場環境の整備に努めているが給与等は、代表者にまかせているのが現状。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設外研修の案内や実技指導の機会をもうけ不安のない職場環境に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	連絡会等にてコミュニケーションをとりサービスの向上に努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の意思やできることに重点をおいて安心した生活ができるように援助できるよう心がけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	アセスメントシートや家族との話し合いで不安、要望等を聞き解らない事があれば連絡をとりながら関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族との話し合いなどからその人らしいサービスを検討し実施している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	コミュニケーションを取りながら利用者の立場にたった対応を実施している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に現在の状況を説明し生活暦などより本人のできることや興味のあることに重点をおきながら介護を実施している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	散歩や外出などを通じ馴染みの場所等に利用者をお連れしている。	入居者に地域住民が多く、散歩や外出の際に地域住民とあいさつや会話をするなど、日頃から、馴染みの人との交流が継続的に行われている。また、要望に応じて自宅等の馴染みの場所への外出が行われており、関係継続を支援している。	

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	団欒の場所にて利用者同士のコミュニケーションを大切にしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	今後より随時実施するように検討中。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	判断は利用者の意思にまかせている。	契約時に、本人・家族の意向・生活暦・身体状況等を聴取し、記録している。また、必要に応じて医師からの意見書や他のサービス事業所から情報を得るなど、より詳細な情報の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントシートや家族との話し合いより今までの生活に近い環境整備に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	バイタルや排便管理、一日の過ごし方についての把握について日々努力している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	必要な場合家族の助言やアドバイス等により本人と家族の求める介護計画に近づくよう作成している。	本人・家族の意向や意見をもとに介護計画を作成している。定期的に介護計画の評価や目標達成状況の確認を行い、必要に応じて介護計画の見直しを行っている。、主治医等と意見交換を行い現状に即した介護計画の作成に努めている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践･結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケア記録などを参考に職員一人一人が同じ情報を共有できるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の状況にあわせその都度いろいろな角度からの支援を検討している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現在検討中。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医とのコミュニケーションを大切にし緊急時などの対応について助言等をいただけるように関係づくりに努めている。	入居者･家族が希望する医療機関の受診が可能になっている。定期的に看護職員による適切な健康管理が行われている。緊急時･必要時に看護師や協力病院等が連携し、適切な支援が行えるよう協力体制を構築している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師とのコミュニケーションを大切にしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	近くに緊急入院できる病院とうについて情報収集に努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族との話し合いなどから今後の対応について検討し、できる限り対応し終末期の不安軽減に努めている。	施設としての重度化・終末期における方針を定めている。終末期においては、家族と緊密に連絡を取り、希望を随時確認すると共に、同法人の経営する特養からの看護師と連携を図り、施設としてできる限りの支援が行えるよう体制を整えている。	終末期・重度化した場合の指針・方針を明文化し、本人・家族に対し説明すると共に、状況の変化に応じて段階的な合意が得られるよう検討をし、より意向に沿った支援ができるよう取り組んで頂くことを期待します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	施設外研修などから緊急時の対応、実践力の向上に努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練の実施を今後さらに検討しながら緊急時の対応を職員全員ができるよう指導していく。	消防署立会いのもと、年1回、消防避難訓練を実施している。今年は夜間を想定した訓練を計画しており、様々なケースに対応できるよう努めている。また、非常通報装置の導入も検討している。	施設において非常時・災害時のマニュアル化や訓練の定例化等、全職員が避難・対応方法をより深く理解すると共に、運営推進会議を通じて地域住民との災害発生時における協力体制を構築することを期待します。
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	適切な言葉遣いや対応についてもう一度際確認するようにしていく。	個人情報保護・プライバシー保護のマニュアルが整備されており、職員は入居者の尊厳の重要性を理解している。職員は、傾聴・声掛け・言葉遣い等理念に基づいた対応を心掛け、その人らしい生活の提供に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の意思決定や希望をできるだけ取り入れるよう今後はたらきかける。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ひとりひとりのペースに職員があわせられるゆとりを今後はつくり、穏やかに過ごせる環境づくりをめざしていきたい。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	整容やみだしなみ等を通じていきいきとした生活がおくれるよう支援していきたい。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	献立以外に利用者の好きな食べ物を取り入れるなどして楽しくおいしく食事ができるような工夫をしている。	入居者の能力や希望に応じて、食事の準備や片付け等を共同で行っている。食事の献立は、法人内の栄養士が作成しており、栄養バランスに配慮した食事を提供している。また、職員は入居者の希望等を聞き、季節や希望に応じた献立作りに努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事チェック表で管理し、水分摂取、低栄養がないように対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	現在一部の利用者が対象だが、今後全員を対象に実施予定。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	できるだけ自然排泄を目標に日々改善に努めている。	排泄チェックリストを活用し、入居者一人ひとりの排泄のパターンを把握しており、入居者の様子を観察しながら声掛け・トイレ誘導を行い、できるだけオムツやパットの使用を少なくできるよう、支援方法を工夫している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	運動、水分、食事の工夫、薬等にて排便管理に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	現在職員と話し合い検討中。	入居者の入浴日・時間・回数等は決められているが、状況・体調に応じシャワー浴・清拭・部分浴等を実施しており、入居者の清潔保持に努めている。また、毎月体重測定を行い健康管理にも努めている。入居者の入浴希望に応じる体制作りを全職員で検討中である。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	施設内にくつろぐ空間をつくり自由に眠れるよう環境整備に努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	下剤、安定剤、民剤、など副作用や薬の効果についての説明をし、服薬管理の重要性について説明をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	料理好きな利用者、散歩好きな利用者、庭仕事の好きな利用者・・・・個々の生きがいを尊重しながら支援している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	地域の協力を今後は活用して利用者がいきいき生活できる環境整備に努めていきたい。	天候や入居者の体調・希望等に応じて、散歩・買い物等外出の機会を設けている。また、同法人の所有する福祉車両を活用して、定期的にドライブを企画・実施し、戸外活動の幅を広げている。家族との外出は自由になっており、家族間での楽しみを支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在検討中。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	現在検討中。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	「生活の一部としていごこちのよい環境整備に」変化できるよう検討中	施設は築１００年を超す民家を改修しており、民家特有の趣を生かし、温かみがありどこか懐かしさを感じさせる施設造りがなされている。広い縁側は日向ぼっこができ、入居者のくつろぎの場所として活用されている。食堂・リビング等は開放的で入居者が思い思いにくつろぐ事が可能になっている。また、昼夜の認識がし易い造りとなっているため、日常生活のリズムが取り易い環境となっている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビやソファー炬燵など昔のイメージを大切にした環境整備を大切にしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族と相談しながら進行中。	入居者・家族の希望に応じて馴染みの家具等を持ち込む事が可能となっており、居心地良く生活できるよう配慮している。また、希望に応じてベット・布団を選択する事も可能になっており、生活暦や身体状況に合わせた居室作りに努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ひとりひとりの生活のリズムをこわさないよう配慮しながらできることから改善中。		